Dehra Dun.

* * * *

ヒマラヤには10種1亜種2変種のイワオウギ属植物(マメ科)が知られており，インドにはそのうち7種1亜種が，西ヒマラヤと東ヒマラヤとに分布する。西ヒマラヤには西，中央あるいは北アジアの山地から，東ヒマラヤには西あるいは北西中国から，ともに比較的近年に分布してきたものと思われる。

□菱山忠三郎・久 世：**イラスト野草図誌** 233pp. 1986. 有峰書店新社，東京．¥2500. 東京都八王子市・多摩地方の野草186種を図説したもの。菱山氏はこの方面の植物を長年調査研究している人で，今までにも「多摩の草木記」などの著書がある。一種ごとに図と解説があり，久世夫人が図を描いている。図はスケッチ風の線描で，実によく特徴を捉えていてわかりやすい。解説は植物の説明のほかに，名前の起こりや伝説・民俗・文学・利用など豊富なおもしろい内容である。 (伊藤 洋)

□井波一雄：**広島県植物図選 III** 100 pls. 1985. 博新館，広島．¥5,500. 100種の図を画いたものである。1981年に第一巻100種，1982年に第二巻100種が出版され，これで300種の図がのせられたことになる。今回のせられた100種のうちの18種は広島県新産であるというなど，克明に調査された上で書かれたものであることがわかる。イワヤクシソウ，サンベサワアザミ，ダイセンミツバツツジなど今まで図を見る機会のなかったものがのせられているのは，見ていても興味をひく。特にハイルリソウは愛知県にしか知られていなかったものなので，貴重な図である。ただ，折角，主に生品から書かれたものなのだから，もっと詳しい記載をつけておいてくれると，学術的価値が一層高まったものと思う。花の色や生育環境など，図では示せないことも書いておいてもらいたかった。例えばウンゼンツツジは花が白色と書かれているが，おそらく純白でなく，内面に赤色の斑点があったのではないかと思う。これは同じウンゼンツツジでも伊豆や紀州のものと違って，四国，中国地方の一型と考えられる。純白のシロウンゼンとは異なるのである。また，採集地が番号で書かれているが，非常にわかりにくい。地形図索引番号は地図がついているのでわかるが，位置の U.D.R.L. や金井索引番号は解説をつけるべきであろう。文中にはでてこないが，植物の採集，資金の調達など，本書の出版は発行者の丹藤順生氏の並々ならぬ努力によるところが大きいようである。多くの方々の協力によって続けられているこの貴重な本の出版も次第にむずかしくなっているようであるが，目標の五巻まで続くよう願わずにはいられない。博新館の住所は次の通り。
〒733 広島市西区南観音 7-7-1. (山崎 敬)